

科目名	ビジネスプラン作成法 The Method of Business Planning		必修	2 単位
学期・曜日・時限	春・火・3 限	春・火・5 限	秋・火・3 限	秋・火・5 限
担当教員名	杉本 等	e-mail		
<p><講義の概要と目的></p> <p>本講義では、主に実際のビジネスプランの作成を通し、ビジネスプランの考え方や作成方法を習得するものである。</p> <p>ビジネスプランは、起業のみならず、新規事業や事業承継など、広く新しい事業に取り組む際に必要な考え方である。講義においては、ビジネスプランの概要および作成方法の説明を行なった後、グループを編成し、各グループによるビジネスアイデアをもとにビジネスプランを作成し、発表をする。また、事例の紹介をするとともに、ゲスト講師を迎え、机上だけでなく実務としてのビジネスプラン作成経験について知見を広げ議論を行なう。</p>				
<p><講義計画></p> <p>1 回：ビジネスプランとは オリエンテーションとして、本講義の概要について説明し、ビジネスプランとは何かを明確にする。また、全員に自己紹介をしていただく。</p> <p>2 回：ビジョン、ミッション、経営理念とは 起業などにおいて、まずは経営者やリーダーの強い気持ちがなければ、ビジネスプランが産まれない。また可視化しなければ人には伝わらない。ビジョン、ミッション、経営理念について説明し、なぜ必要なのかを理解する。</p> <p>3 回：ビジネスモデルとは(1) ビジネスプランにおいて、なにで儲けるか、にあたるビジネスモデルは中核となる。ビジネスプランについて説明し、モデルの構築方法について理解する。</p> <p>4 回：ビジネスモデルとは(2) いくつかのビジネスプランについて解説し、そのターゲット、価値、コンセプトについて理解する。</p> <p>5 回：事業戦略とは いくらビジネスモデルが優れていたとしても戦略がなければ成功は望めない。事業戦略について解説し、戦略の立て方について理解する。</p> <p>6 回：資金計画とは ビジネスにおいて、資金は必要であり、資金がなければ実行ができない。ビジネスプランに必要なファイナンスについて理解する。</p> <p>7 回：要員計画とは 事業を実行するにあたり、役割を明確にした組織構成が必要である。ビジネスプランに必要な組織について理解する。</p> <p>8 回：ゲスト講師：私のビジネスプラン 企業の広報 PR をしているベンチャー企業 ネットワークコミュニケーションズ(株)の岡田社長。</p> <p>9 回：ビジネスプランの実例 いくつかのビジネスプランについて示し解説を行なう。例を通じ、実際のビジネスプランの必要なことや重要となるポイントについて理解する。</p>				

10回：グループ発表のための作業

13回以降の発表に向けて、グループ内で発表内容と役割を決め、資料の作成をする。

11回：ゲスト講師：私のビジネスプラン

中小企業の輸出支援をしているベンチャー企業 エイグローブ(株)の小粥社長。

12回：グループ発表のための作業

次回以降の発表に向けて、グループ内で発表の最終調整をする。

13回：各グループの発表(1)

作成したビジネスプランについて、グループごとに発表をし、質疑応答を行なう。

14回：各グループの発表(2)

作成したビジネスプランについて、グループごとに発表をし、質疑応答を行なう。

15回：各グループの発表の振り返り

全員が各ビジネスプランへ仮想投資をして、その理由について全体で議論する。投資する側として客観的にビジネスプランについて理解を深める。

<講義の進め方>

前半は教科書、参考書や配付資料を中心に講義や演習を進め、各個人でのビジネスプランへの理解を深める。後半は、ゲスト講師との具体的なビジネスプランを通しての全体議論、グループを編成しビジネスプランの作成、最終的にはプレゼンテーションまで実施し全員で評価する。

<準備学習内容>

毎回次回分の予習として、教科書や参考書を読むこと、また必要な情報を Web などで収集しておくこと。詳細は講義に指示する。

<教科書及び教材>

- ・グロービス経営大学院 新版グロービス MBA ビジネスプラン (ダイヤモンド社 2010年)
- 他、適宜、資料を配付する。

<参考書>

- ・実践ビジネスプラン 事業創造の基礎力を鍛える (中央経済社 2015年)
- ・リーン スタートアップ (日経 BP 社 2012年)
- ・成功するビジネスプラン (日本経済新聞社 2005年)
- ・ビジネスプランシナリオ作成術 (かんき出版 2017年)
- ・実践リーンスタートアップ (オーム社 2012年)
- ・マネして完成! 事業計画書 (技術評論社 2014年)
- ・概論 ソーシャル・ベンチャー (ファーストプレス 2006年)

<成績評価方法>

欠席6回以上は成績評価しない。小レポートおよび全体議論貢献30%、グループ発表40%、最終ビジネスプラン30%の割合で評価する。

<履修条件> 特になし。
<DVDによる視聴> 可
<オフィスアワー> 火曜 4 限、火曜 6 限
<その他> ゲストの日程都合などで日程変更することがある。第一週（初回）は、履修者全員に自己紹介と入学動機のスピーチをしていただく。またグループ作業や発表への積極的参加と講義における議論への事前準備を推奨する。適宜、小レポートを課すことがある。